

関西眼疾患研究会 平成27年度事業報告書

平成27年1月1日より平成27年12月31日まで

本年の事業については、平成27年度の事業計画に基づいて実施し、本会の目的達成に努力した。

1. 会員へ向けての定期講演会

1. 1月7日（水）

木下茂教授による、「京都府立医科大学眼科の診療・研究そして教育について」の講演

2. 2月18日（水）

Prof. Friedrich Kruse、Prof. Ursula Schloetzer-Schrehardt（University Erlangen-Nürnberg, Germany）両ドイツ角膜研究者による、フックスジストロフィの患者由来の疾患細胞モデルを用いた研究の進捗報告及び今後の研究内容についての討議

3. 6月24日（水）

関西眼疾患研究会特別講演にて Dr. Richard A. Lewis（ASCRS 会長, USA）による、「New Glaucoma Technologies」についての講演

4. 6月29日（月）

Dr. Hajirah Saeed（Harvard University, USA）による、角膜疾患についての講演

Dr. Passara Jongkajornpong（Mahidol University, Thailand）による、角膜疾患の基礎、臨床研究についての講演

5. 11月4日（水）

関西眼疾患研究会特別講演にて佐藤陽治部長（国立医薬品食品衛生研究所）による、「レギュラトリーサイエンスの視点から見た再生医療」についての講演

6. 11月25日（水）

関西眼疾患研究会特別講演にて Prof. Winston Whei Yang Kao（College of Medicine University of Cincinnati, USA）による、「molecular research and eye research」についての講演

7. 11月26日（木）

Prof. Pedram Hamrah（Tufts Medical Center, USA）による、角膜の神経再生に関する研究における研究成果についての講演

等

招聘講演は、京都府立医科大学眼科学教室木下茂教授退官及び外園千恵教授着任による移行期間のため、例年よりやや少ない開催となっている。

2. 海外研究者との情報交換会

1. 2月17日（火）韓国角膜研究者との意見交換会

出席者 木下茂、島崎潤（東京歯科大学）、上田真由美先生、北澤耕司、大家 義則（大阪大学）、平見 恭彦（神戸先端医療センター）、根岸貴志（順天堂大学）、奥村直毅、韓国人眼科医師（約15名）、他（約合計35名）

○韓国人眼科医と日本人眼科医の人的交流と共同研究の活発化のための懇親会を開催した。韓国側は約5大学から15名ほどの参加者があり、日本側も複数の大学からの参加者があり、趣旨に沿うものであった。

共同研究に関する打ち合わせや、今後の共同研究グループ形成の可能性について協議した。また、日韓の眼科医療、研究、キャリアパスの相違についても意見交換があり興味深いものであった。急速に発展するアジアにおいても、進歩の早い韓国人研究者との意見交流は国際的な科学技術交流という観点からも重要なものであった。

2. 2月18日（水）ドイツ角膜研究者との意見交換会

出席者：木下茂、小泉範子、Friedrich Kruse、Schloetzer-Schrehardt、奥村直毅（合計5名）

○ドイツと京都府立医大、同志社大学研究チームで進めている様々な角膜内皮に関する研究プロジェクトに関しての意見交換を行った。また、患者ゲノムサンプルの取り扱いについて討議し、希少なサンプルを用いての遺伝子解析について今後の方向性を決定した。

角膜内皮移植について世界的にも有数の術者である Kruse 先生と、眼病理学の大家である Schloetzer-Schrehardt 先生との研究打ち合わせであり、今後の角膜内皮研究の方向を決定する上で極めて有意義であった。

3. 11月26日（木）

出席者 Pedram Hamrah、木下茂、外園千恵、稲富勉（合計4名）

○研究会において時間的制約のために中断された角膜神経再生研究に関するディスカッションを行った。また、Pedram 先生の研究に対する姿勢や物事のとらえ方等、若手研究者にとっては大変刺激になるお話が多く聞かれ、それについてもさらに掘り下げてお話を聞かせて頂いた。今回の講演会および意見交換会はともに、最新の角膜研究の成果のみならず、世界各国からの多数のフェローを育ててこられた Pedram 先生の、研究への情熱の根源を伺い知ることのできる大変有意義なものであった。

3. 国内研究者との情報交換会

1. 1月20日（火）

○相原 一先生（東京大学大学院医学系研究科 感覚・運動機能医学講座 眼科学 教授）を招いて意見交換会。

2. 11月4日（水）国立医薬品食品衛生研究所 佐藤陽治先生を招いての情報交換会

出席者：佐藤陽治（国立医薬品食品衛生研究所）、木下茂、外園千恵、手良向聡、上野盛夫、今井浩二郎（計6名）

○再生医療の実用化研究を実施する中で直面している課題について意見交換を行い、そのなかで、安全性・有効性はもちろんのこと、さらに品質を追及すべきである、という見地について合意した。さらに欧米における再生医療の審査状況についても、興味深いお話を説明いただき、今回、培養角膜内皮の今後についてよく相談でき、我々が進めている研究に佐藤先生がご理解くださり応援していただけるきっかけとなりえる意義深い会であった。加えて手良向教授にも、本研究を深く説明することができ、今後のサポートを依頼する絶好の機会となった。

3. 12月16日（水）名古屋大学 湯川博先生を招いての情報交換会

出席者：湯川博（名古屋大学先端ナノバイオデバイス研究センター）、羽室淳爾、山田潤、戸田宗豊、上野盛夫（計5名）

○半導体材料や希土類錯体からなる量子ドットは、従来の有機系蛍光プローブとは異なる優れた蛍光特性(超高感度,超高精細,超長寿命など)を有することから、その応用は分析化学の各分野に急速に拡大している。湯川先生のグループは近年、量子ドットの再生医療,殊に幹細胞移植治療への応用に関する研究に取り組み、「量子ドットによる幹細胞ラベリング技術」、「移植幹細胞 in vivo 蛍光イメージング技術」、そして「微量元素分析による移植幹細胞の集積組織・臓器解析技術」の開発に成功した。京都府立医科大学眼科が取り組んでいる培養ヒト角膜内皮細胞を用いた角膜再生医療における非臨床研究にこれらの技術を応用し、移植細胞の生体内動態の詳細な解析や集積組織・臓器の検索を行うための情報交換を行った。また量子ドット技術の眼科領域への応用についても意見交換を行った。

4. 会員へ向けてのその他の講演・シンポジウム

1. 3月8日（日）木下茂教授 停年退職記念シンポジウム（会員以外にもオープン）

（臨床実践編）

革新的網膜硝子体手術法の開発（1）小森秀樹

革新的網膜硝子体手術法の開発（2）米田一仁

革新的網膜硝子体手術法の開発（3）小嶋健太郎

屈折矯正手術の現在と未来 稗田牧

先端的眼形成手術を極める 森和彦

角膜内皮移植法の臨床研究 稲富勉

難治性角結膜疾患に対する先進医療 外園千恵

非侵襲的ドライアイ評価法の開発 横井則彦

(研究開発編)

眼粘膜上皮と自然免疫系の調節 上田真由美

角膜の幹細胞を模索する 中村隆宏

ヒト ES/iPS 細胞利用基盤技術の開発 上野盛夫

POCK 阻害剤を用いた角膜内皮治療薬の開発 小泉範子

再生医療新法と今後の再生医療 木村健一

23 年間の総括 木下茂

(特任講座「感覚器未来医療学」開設記念講演)

自今以降のトランスレーショナル研究 木下茂

2. 2月23日(月)同志社大・京都府立医大眼科共同研究の成果報告会

出席者： 木下茂、外園千恵、稲富勉、渡辺彰英、北澤耕司、中村隆宏、山中行人、小泉範子、奥村直毅、大倉翔貴、岡雄太郎、辻本勇氣、中野新一郎、平野浩惇、南山竜輝、井上亮太、岩本美優、角谷和也、北原美優、牛夢茜、日下部綾香、藤井圭大、堀場正寛、Clémence 弓枝 Hurni (スイス)、Elena Koudouna(ギリシャ)、Renata Ruoco Loureiro (ブラジル)、Kristina Spaniol (ブラジル)、Passara Jongkhajornpong (タイ)

(計 28 名)

○京都府立医科大学と同志社大学が実施している視覚再生医療および新しい医療機器の開発に関する研究について同志社大学生命医科学研究科の大学院生 6 名が研究成果を発表し、意見交換を行った。生命医科学研究の臨床医学への応用ならびに新しい医療機器開発における課題について活発なディスカッションが行われ、大変有意義な懇話会となった。

5.オープンフォーラム (共催：参天製薬株式会社・京都眼科医会)

1. 第 45 回京都眼科フォーラム

平成 27 年 3 月 21 日 (土) テーマ：『みんなで学ぼう！最新治療：症例編』

東邦大学 (堀 裕一) 『オキュラーサーフェス疾患と眼表面ムチン』

岐阜大学 (川瀬 和秀) 『緑内障治療の新しい展開』

香川大学 (辻川 明孝) 『網膜循環疾患の病態と治療戦略』

○好評の『みんなで学ぼう！最新治療』の症例編を企画いたし、各分野の最前線でご活躍の先生方をお招きした。選りすぐりの症例から、明日からの臨床に役立つ最新かつ最

良の疾患に対する考え方を学ぶいい機会となった。

(参加者実績：約 80 名)

2. 第 46 回京都眼科フォーラム

平成 27 年 6 月 27 日 (土) テーマ：『症例から学ぶ 日常診療のポイント』
名古屋市立大学大学院 (安川 力) 『加齢黄斑変性の病態と日常診療のコツ』
JCHO 大阪病院 (大黒 伸行) 『症例から学ぶ眼炎症疾患の診断と治療』
熊本大学大学院 (谷原 秀信) 『房水流出路の再建 トラベクトミから ROCK 阻害薬まで』
兵庫医科大学 (三村 治) 『OCT でできる鑑別診断－視神経疾患・弱視症例の見方－』
○様々な眼疾患の疾患概念や診断、治療の方法・ポイントが変化し、専門性がますます
ます中で知識をさらにブラッシュアップするため、各専門領域で、定評のあるエキス
パートの先生方を迎え講演では選りすぐりの症例を見せていただいた。

(参加者実績：約 160 名)

5. 眼科診療アップデートセミナー (共催：下記の 11 企業との共済事業として開催)

平成 27 年 3 月 7 日 (土) ～8 日 (日) ウェスティン都ホテル京都

≪3 月 7 日 (土) ≫

眼圧非依存性因子のアップデート 中澤 徹 (東北大)
緑内障視野の解析方法 山本 哲也 (岐阜大)
加齢性変化から眼の病気を考える－眼と身体のアンチエイジング 木下 茂 (京府医大)
白内障の成因と環境要因 佐々木 洋 (金沢医大)
眼内レンズの選択－どの眼内レンズを、どう選ぶか 大鹿 哲郎 (筑波大)
瞳孔の異常 柏井 聡 (愛知淑徳大)
外眼筋の異常 update 三村 治 (兵庫医大)
弱視への対処法 佐藤 美保 (浜松医大)
近視予防の考え方 不二門 尚 (大阪大)

≪3 月 8 日 (日) ≫

1 日交換遠近両用 SCL の選択と処方 塩谷 浩 (しおや眼科)
真菌性角膜炎へのアプローチ 井上 幸次 (鳥取大)
コロナサインと角膜内渦流 大橋 裕一 (愛媛大)
緑内障治療点眼薬の選択法 相原 一 (東京大)
日常で遭遇することの多い、遺伝性網膜疾患 6 パターン 近藤 峰生 (三重大)

加齢黄斑変性の現状と未来 吉村 長久 (京都大)

網膜硝子体界面症候群 岸 章治 (群馬大)

ぶどう膜炎の診断と治療 -再考! ベーチェット病- 後藤 浩 (東京医大)

内眼炎の病態メカニズム 大黒 伸行 (JCHO 大阪病院)

眼窩腫瘍とその治療 嘉島 信忠 (聖隷浜松病院)

(共催: エイムオー・ジャパン株式会社、大塚製薬株式会社、参天製薬株式会社、ジョンソン・エンド・ジョンソン株式会社ビジョンケア カンパニー、千寿製薬株式会社、株式会社ニデック、日本アルコン株式会社、バイエル薬品株式会社、ファイザー株式会社、HOYA 株式会社、ボシユロム・ジャパン株式会社 合計 11 社)

6. 視覚再生フロンティア研究発表会

平成 27 年 6 月 13 日 (土) ウェスティン都ホテル京都

寺尾信宏	臨床学的特徴からみた中心性漿液性脈絡網膜症の病態解析
田中寛	Schwalbe's line の解析
山中行人	高速瞬目解析装置を用いた脳疾患スクリーニングの臨床応用について
服部裕基	眼瞼下垂手術が自発性瞬目に及ぼす影響
山本雄士	濾過胞感染多施設共同研究データによる抗緑内障薬使用群、非使用群の眼圧の検討
山脇敬博	加齢黄斑変性の病態解明に向けて
張 佑子	Laser in situ keratomileusis(LASIK)術後の角膜上皮厚の比較検討
加藤弘明	眼表面と瞬目の関係の検討
木村 健一	再生医療等安全性確保法の施行後の状況について
木下 茂	研究の在り方

平成 27 年 12 月 19 日 (土) ウェスティン都ホテル京都

佐藤 貴彦	難治性筋疾患に対する細胞移植治療の可能性
山中 行人	高速瞬目解析装置を用いた脳神経疾患スクリーニング
加藤 弘明	眼表面と瞬目の関係の検討
張 佑子	角膜上皮厚に影響する因子の検討
山本 雄士	濾過胞感染多施設共同研究データを用いた観察研究
戸田 宗豊	培養角膜内皮細胞の亜集団
羽室 淳爾	培養角膜内皮細胞移植患者の多様性
浅田 和子	水疱性角膜症病態についての新規仮説
田中 寛	培養ヒト角膜内皮細胞の接着力の解析
山脇 敬博	RPE の免疫抑制作用、補体抑制因子産生におけるマクロファージの関与
篠宮 克彦	AMD 眼における新規補体第 2 経路抑制分子 CTRP6 について

向 敦史	"RPE の線維化誘導における Epigenetic 機構、 新規 HDAC 阻害剤 OBP801 による線維化阻害 - LOX と MMP"
寺尾 信宏	CSC の病態解析
加藤 浩晃	非眼科医のための眼科教育プログラムの開発と評価
木村 健一	再生医療等安全性確保法の施行後の状況について

京都府立医科大学眼科において研究に従事するものが一同に介して、研究の進捗状況の報告と今後の方向性を検討することを目的として、第 25 回視覚再生フロンティア研究成果発表会を開催した。外園教授就任後、初の研究成果発表となった。研究発表はプレゼンテーション（8-15 分間）の後に討論（3-5 分間）を行った。臨床研究および基礎研究の成果と今後の展望が報告された。質問は活発に行われ、今後の研究について有意義な討論が交わされた。また厚生労働省へ出向中の木村健一先生には再生医療等安全性確保法の施行後の状況についてご講演いただいた。現在当教室で進行中の再生医療プロジェクトを進めるうえで有用な情報が得られた。

今後の当教室の研究の発展につながる有意義な会議であった。

7. iseminar (アイセミナー)

1月17日(土) 第6回 iseminar フォーラム

網膜疾患への上脈絡膜腔からのアプローチ 小嶋 健太郎 (京都府立医科大学)
 緑内障の神経保護・再生研究 原田 高幸 (東京都医学総合研究所)
 急性閉塞隅角症(APAC)の治療としての白内障手術 飯田 嘉彦 (北里大学)
 俺も作るぞ医療機器 武蔵 国弘 (むさしドリーム眼科)

○今回は視神経再生研究のトップランナーのお一人である原田先生に最新の研究成果と今後の perspective についてご講演いただき、小嶋先生にはエジプトまで出かけて学んでこられた上脈絡膜腔バックリングについてご紹介いただいた。現状ではまだまだチャレンジングな術式であるが、改めて網膜剥離とその治療法というものを考えさせられる機会になった。飯田先生にはいわゆる緑内障発作に対する治療としての白内障手術についてご講演いただいた。豊富なご経験をご紹介いただき、全員参加にてディスカッションが盛り上がり有用な機会となった。武蔵先生は"課外活動"について、大変刺激になるお話を紹介していただいた。

8月8日(土) 第7回 iseminar フォーラム

まると加齢黄斑変性の病態仮説 安川 力 (名古屋市立大学)
 遺伝子治療による視覚再建の試み 西口 康二 (東北大学)

おもしろすぎるぞ角膜内皮 奥村 直毅（同志社大学）

あたらしい眼科手術 荒井 宏幸（クイーンズ・アイ・クリニック）

○安川先生には、加齢黄斑変性の病態について独自の着像に基づいた大きなイメージを見せていただき、多くの黄斑疾患が年齢を横軸にとった場合にはスペクトラムで捉えられるという目からうろこなレクチャーを頂いた。西口先生には遺伝子治療ができることについてマウスモデルの詳細なデータに基づいた、「足りないものを補って治すという手法であればいつでもなんでも治療可能である」という着想に驚かされた。奥村先生には角膜内皮の研究成果について特にフックス角膜内皮ジストロフィについてご紹介いただき、病態の解明とそれに続く治療ターゲットの発見、非臨床研究、可能であれば臨床研究までをワンストップでやりぬきたいという意思表示が印象的であった。荒井先生には最新の白内障手術についてご講演いただき、4K 解像度モニターを用いての技術をご紹介されていた。次々と新しい技術が入ってきて、進み続けている分野だと改めて実感した機会となった。

8. 情報提供など

- ・オンラインサービス「iseminar」の会員に定期講演会や医学情報を提供した。
- ・オンラインサービス「iseminar」にて動画コンテンツ合計118本を公開、会員に向け情報提供を行った。（症例ドキュメント38本、手術動画33本、セミナー動画47本）
- ・ホームページを用いて本研究会の活動内容や活動成果を公表した